

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

探求～生き物と餌～／学校法人あおい学園 あおい第一幼稚園

園ではどのような生き物を飼育していますか？クラスの飼育、一人一人の飼育など、どのように進めていますか？飼育や栽培活動は、命に触れ責任をもって育てる体験を重ねることができます。この事例からは、飼育することにより、生き物と餌について探求を深めていく子どもたちに、「科学する心」が育まれていることが伝わってきます。



### 蚕と桑の葉／5歳児

#### 蚕の誕生（きっかけ）／5月

育ちのキーワード：期待・命の誕生・探索

5歳児が東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室に行き、准教授横山岳先生から蚕の卵をいただく。「これが卵なの？」「ゴマみたいだね!」と言う。数日後、蚕の赤ちゃんを見付け「生まれたー!」と喜ぶ。「生まれたばかりのカイコは黒色なんだね」「小っちゃい!」「ご飯あげなきゃ!」

#### 桑の実・桑の葉

蚕の餌は桑の葉だと知っている子どもたちは、「赤ちゃんの餌を取りに行く」と言い園庭に出た。すると、桑の木に一直線に行ったので、「どうして分かったの?」と保育者が尋ねた。Aちゃんは「だって、これ桑の実でしょ!同じ“クワ”が付くから桑の葉だよ」と言い、Bちゃんは「あっちにもあるんだよ」「新芽をあげようよ。新芽って柔らかい葉っぱのことだよ。お母さんが教えてくれたんだ」「カイコちゃんはまだ赤ちゃんだから、歯がないんだよ。だから柔らかい葉っぱじゃないと、食べられないんだ。僕の赤ちゃんも柔らかいものしか食べないもん」と言う。

#### 考察

子どもたちは、いつも食べていた桑の実と桑の葉を結び付けて考えていた。予想していない子どもたちの姿や考えに、保育者は驚いた。また、蚕を通して、知らなかった新しい桑の木を知ることができた。同じ桑の葉でも、赤ちゃんのために柔らかい新芽を選んでいる姿から、子どもたちは蚕を思いやり、桑の葉の特徴を考え活動していると思われる。



#### 蚕との触れ合い／5月

育ちのキーワード：興味・発見

毎日、餌の世話をする。蚕に当初関心の薄い子どもも、得意の木登りで桑の葉を採るなど、一人一人がいろいろな姿で蚕と関わる。

身体測定の日、「カイコちゃんも測ってあげよう」と言い、測定する。道具を使うことで、蚕の大きさを目で見て知る。

休み明けに登園するなり、子どもたちは蚕の所へ行く。そして蚕の姿を見るなり「うわぁー!でっかくなってるー」「こんなに早く大きくなるんだ」と変化に気付き驚く。そ



して、Cちゃんが休み中に誰が餌をあげていたのか疑問にもったことで、保育者が家に持って帰ったことを知ると、「今度は僕が持って帰ってお世話するよ」とDちゃんが言う。



#### 考察

僅か2日間の休みで大きさの違いが分かるのは、子どもたちが日々、蚕とたくさん触れ合っているからであろう。また、大きさの変化に気付いたことで、蚕を育てるには休日も世話が必要だと知る。

### ✦ お掃除大好き

育ちのキーワード：創意工夫の広がり

子どもたちは毎朝桑の葉を摘み、そしてカイコが入っている箱に葉を入れる。この頃のカイコは約1センチ程度と小さく、古い葉から新しい葉へ子どもの手を使って移動させようとすると、掴むのが難しくつぶしてしまいそうになったり、また、葉の裏に隠れ見つけにくかったり…などなかなか大変であった。しかし、毎日世話をしていくとカイコが自ら新しい葉へ移動することが分かり、それからは朝、葉をあげて午後に古い葉などを取り除くようにしていく。それからの楽しみは午後のウンチ掃除になった。「カイコちゃんのウンチって四角いね」「全然、臭くないよー」とウンチの形や大きさや、葉っぱの食べかすに興味をもち、午後になると誰かしら蚕の家掃除を始めるようになる。そのきっかけとなったのはAちゃんとSちゃんが作ったお掃除セットだ。部屋に置いてある描画用のハケを彼女らはホウキに見立て、空き箱でチリトリを考えたのである。



#### 考察

小さな蚕の命を守るため、ちょっとした工夫で楽しい遊びに変化させてしまう子どもの発想に、保育者は感心した。また「ウンチ触るの嫌だ」と言っていた子どもも、2人の遊びを見て自分もやってみたいという思いが生まれ、お掃除セットがクラスの中で広がっていった。このお掃除セットができたことによって自ら進んで掃除をするなど、関わりが深まるきっかけとなったように思う。

### ✦ 桑の葉を味わう

育ちのキーワード：好奇心・察する

Sちゃんが「カイコちゃんって、葉っぱよく食べるよね。カイコちゃんは毎日、桑の葉ばかり食べて飽きないのかな？そんなに美味しいの？」と言ったことをきっかけに、保育者が「どんな味がするんだろうね？」とみんなに問いかけた。「苦いんじゃない」「大人の味だと思う」「カイコちゃんには美味しいけど、人間には美味しくなさそう…」と言う。味に興味をもったSちゃんの言葉から、自分たちが桑の葉を食べることでカイコのことをもっと知ることができるのではないかと思い、桑の葉を味わうことを子どもたちに提案する。「本当に食べられるの？」「カイコちゃんが食べてるから…大丈夫じゃない?!」と少々不安な様子だったが、畑の手入れをしてくださる保護者をお願いして、桑の葉の天ぷらを作っていただく。食べた感想は「桑の葉って美味しいね」「おかわりー」「僕はちょっと美味しくない」と、様々であった。すると「桑の葉っぱを食べたから、僕たちカイコちゃんになっちゃったね」とK君が言い出す。「先生も食べたから、今日からカイコ先生って呼ぶね」と言い、言葉の最後にカイコ語として「～カイ」と言い「おはようカイ」「そうカイ」などの言葉遊びが流行った。



#### 考察

Sちゃんが桑の葉の味に興味を持ったのはきっと、毎日カイコを見て、ひたすら食べ続けているカイコの姿を目にしたからであると思う。そして桑の葉を自分たちも実際に食べ、美味しいと思ったからこそカイコの気持ちが分かり、言葉遊びが流行ったのではないか。Sちゃんの疑問はみんなの学びになった。